

第 48 回全国学童保育指導員学校・西日本・愛知会場（20230604）レポート

【クラブ】（ 風の子クラブ ）

【名 前】（ 川原郁美 ）

①午後に参加した講座のタイトルをお書きください。

（ 特別 ）講座（No11） （ 学童保育と性教育 ）

※全体講座のみに参加された方は、全体講座のタイトルをお書きください。Noと選んだ理由は必要ありません。

②この講座を選んだ理由をお書きください。

最近よく聞く「LGBTQ」。講座一覧が発表されたときに最初に興味を持った内容でした。全体会からの引き続きの講座で、踏み込んだ内容や、細かい内容まで学べそうだったからです。

③本日の講座で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

全体会では、性の多様性について「知っているつもりなだけだったなあ」と気づきました。「LGBTQ」はよくメディアでも耳にするので知っていましたが、「LGBTQIA+」というのは初めて聞きました。こういった生物学的な性と社会的な構成役割としての性の自認に違いがあるのを表す言葉が、90種類くらいあるというお話には驚きました。「正しい知識がないことで、知らないことで、無意識に他者を傷つけていることもある」という言葉にはドキッとしました。これから仕事を続けていくうえで、正しい知識をもつ大切さをあらためて感じました。

午後の講座でも、引き続き性のことについて学びました。「性教育」というと、日本ではまだまだ敬遠されがちですが、私個人としては、敬遠することなくむしろ少しずつでも性というものに子どもたちを触れさせて、正しい知識を伝えていくべきだと思います。性についての公けになった情報が少ないからこそ、間違った情報に振りまわされて、性犯罪に被害者としても加害者としても巻き込まれてしまうのではないかと思います。講座を聞いていて、そういったものから子どもたちを守るためにも、大人が正しい知識をもって子どもたちに伝えていく責任があると思いました。ただ、それを学童保育の現場でどこまでできるのかと考えると悩んでしまいますが、...

後半には、現場の指導員さんからの質問に対して玉木先生が答えていくという、交流的な時間がありました。若い男性指導員さんの「2年生の女の子が膝に入ってくることに抵抗がある。親しみをもってからこそその行動だから嬉しいけれど、「乗らないで」と伝えるべきか？」という趣旨の質問がありました。低学年だからよしなのか？低学年だからこそこれから成長したときのためにNOとするのか？私も考えながら聞いていました。回答としては、・まず子どもには伝えるべき。・その現場で誰であっても乗せないのか、何年ま

では乗せていいとか指導員で話しあって決めてもいい。・ついでにパーソナルスペース的なものを伝える機会にしてみてもいい。というものでした。私もパーソナルスペースについては、子どもたちに伝えていきたいと思っているので、今後現場で同じような状況があったときには、「乗ることが悪い」という聞こえ方にならないように配慮しながら、伝えるようにしようと思いました。

これから性の多様性や性教育の扱い方については、もっともっと考える必要が出てくると思います。私たち大人が正しい知識をもって伝えることで、子どもが多様性に寛容で、被害者にも加害者にもならないようにできたらいいと思います。

提出されたレポートは、当会の広報誌やホームページに掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、6/18（日）です。常勤専任指導員に手渡し、または okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。